

ラストチャンス

小見川香代子

中医協の話、とても興味深く聴かせていただいた。
医師の下に、ぶら下がった薬剤師・・・
そういうイメージは、なかなかぬぐい取れない。

先日、私の友人は薬局を辞めた。
と言うより、やめさせられた。
理由は、処方箋を書いたご本人のご機嫌を損ねたためであったという。
疑義照会が気に入らないと言うのが本音らしい。
表向きは、「待ち時間が長いという患者からのクレームがあった。薬剤師を変えるよう、即刻やめさせないと処方を出さない」と医師からオーナーに言われたようだ。
泣く子と医者にはかてない医療界・・・彼女はそう話してくれた。

中医協で、薬剤師の代表が医師の顔色をうかがっているということに、腹た
だしい思いと、やっぱりというあきらめの思いが重なる。
現場で働く薬剤師の正義は、どうなるのだろう。

「かかりつけ薬剤師」。ラストチャンスとだれもがそう言う。
私は、やっと自由がやってきたと思う。
信頼関係が無いと、同意はとれない。
今までの、患者さんとの関係をおおいに生かして、同意書をいただく。
患者さんから依頼されると認められたうれしさと、責任を持ってすべてのこと
に対応するということの本来の仕事に身が引き締まる。
今までやってきた仕事と変わりはない。
報酬がついたことで、そこにお金を支払うべき価値があるということをお患者も
薬剤師も意識することができる。

ラストチャンス、後はない。
後はないが、先はある。
本来のプライドをかけて、前に進むしかないと思う。